

---

# 鬼肉嗜食

白金

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鬼肉嗜食

### 【Nコード】

N7751I

### 【作者名】

白金

### 【あらすじ】

これは、血生臭く利己的な、それでいて漫然とした、日々の徒然自称『偏食魔導師』、他称『鬼喰い』、相談所『便利屋』所長、メイン。唯一人の所員兼、近接戦闘要員兼、家政婦である契約者、カラスノ 鴉 アオヤ 碧弥。商売敵の魔術師たちや、異形異端極まる鬼の面々。彼らは唯、自分の為に生きている。

## 始まり以前（前書き）

やたらめったらエグいタイトルではありますが、内容は厨二全開な異能者ラノベを目指し、軽くしていく予定です。

……ああでも、考えてみればこのタイトルも厨系か……。

何はともあれ、読んでくださった方々の記憶の片隅に残せるモノを書ける様、精進いたしますので、退屈しのぎにでもしてくださいれば幸いです。今後とも、宜しく願います。

ではでは

いらっしヤイませ。才留守番から居留守番まで、なんでも請け負う相談所、『便利屋』デ御座います

## 始まり以前

身長、189?。

目測体重、60?後半。

長身瘦躯。

携行武器、無し。

外見のみを考慮するなら、目前に佇む男の脅威は、皆無に等しい。

対する私の装備は十全。

右に、小回りの利く格闘用の戦闘ナイフを順手。左に、国内では、使うどころか見ることもないだろう巨大な両刃ナイフを逆手。両肘両膝には投擲ナイフが2本ずつ。

女の身で、加えて、彼より頭2つ分は背が低いものの、生涯を費やし鍛えた身体能力と戦闘技術は、あらゆる面で上位にあると自負できる。

刃物を携えた夜更けの来訪者にも構わず、未だ壁に寄りかかったまま暢気に三日月を見上げている男の懷まで、一息に飛び込み間合いを詰め、その勢いのまま間髪入れず頸を刎ねる程度の動作、相手が反応するよりも手早く済ませられる。こと、格闘に関してならば、それだけの能力差が歴然と存在している。

だとしたら、それを実行できないのは、見て取れるだけの戦力差があるはずの私が仕掛けられないのは、何故か。

簡単な解だ。

見て取れない　私の理解の範疇を逸脱した力を相手が所有しているだけのこと。

勝算など予測できるはずもない、不確定要素しかない挑戦。

事前に調べた僅かばかりの情報からでは、敵戦力の片鱗も読み取れない。

闘いの最中に見極め即応せざるを得ない。暗中模索とは、まさしくこんな状況だろう。

私の技が何処まで通じる？

私の速さが何処まで通じる？

私の力が何処まで通じる？

私の、生涯を捧げた道は、この男を超えられるのか？

分からない。

未知に打ち勝ち、屈服させられるかも知れない。

嘲笑うように、私の全てをねじ伏せられるかも知れない。

歯牙にもかけられぬ屈辱に誇りを碎かれた時、自己を保てるかすら、  
分からない。

それでも、私は私の為に

「魔導師……鬼喰い……」

この刃を手に入れる。

「『賭け』を、しませんか？」

業務・1 (前書き)

『所長』マイン

年齢：26歳

身長：189?

体重：66?

性別：男

髪色：灰

瞳色：茶

装飾：片眼鏡 (左目用)

人種：Unknown

武装： (魔導)

階級：Finest

所属：相談所『便利屋』責任者

魔術院・空間科

築20年、3階建ての集合住宅4棟が長方形を形作るように並び建つ団地の、辛うじて自動車が1台通れる小道を挟んだ向かい側に、巨大な『箱』が鎮座している。

目の前に群を成す直方体と同じ高さのソレは、寸分違わぬ立方体。申し訳程度に取り付けられた玄関と幾つかの窓があるうと、そんな存在が霞むほど、物の見事に『箱』と言う印象を見た者に刷り込むこの大コンクリート・ブロックこそが、ここ1年余りの私の職場であり住居だ。

そして、

「オヤツソウなんデすか？ ヤツぱりこんな不景気じゃア、色々ト困りますヨねエ。昨夜も、モウ預金残高が少なイトかデ碧弥さんが、オかわりは丼3杯まデ、なんテ言イ出しテ……飢工死にしチャイますヨ、わたくし……エツ、何か明るイ話題？ ソウデすねエ……アア、ソウダ、141号室の司哉君が大学推薦合格シタの、聞きました？ 美雪ちゃんは確か来年受験デすヨね？ ウチの碧弥さんを家庭教師にイかがデすか？ 数学トかはさツぱりデすが、文系科目には滅法強イデすヨ、彼女。アツ、デモ足し算ダけならフラッシュ暗算なんテ特技も……受験じゃ使エナイ？ アはは、ごもットもデす」

団地中央の広場で井戸端会議に興じている奥様方の集団から、大きく上方向に飛び出た灰色頭の主が、誠に遺憾ながら、ここ1年余りの私の上司だ。



道路を横切り早足に広場へ歩む私に気づき、会話の為ずっと下げた茶眼を上げ、ずり落ちかけた片眼鏡を直しながら、私へ普段と変わらぬ緩んだ表情を向ける彼に、最上級の営業スマイルで応じる。

「お早うございます、所長。」

何やら、3杯までしかダメなら、と、まるで山のような大盛で井2杯もおかわりしたした人のもとは思えない愚痴が聞こえた気がしましたが？」

無論、纏う気配は本心を一切隠さないままで。

「キツト気のせいデすヨ。オ早ウございます、碧弥さん」

いけしゃあしゃあと返す我が上司。刻んでやるうか、と半ば本気で思う。

「あら、おはよう、碧弥ちゃん。今日も所長さんは相変わらずで大変ねえ、疲れ溜まってないかしら？」

「お早うございます。」

息子さんの第一志望校合格、おめでとうございます、金山さん。お心遣い感謝します。

山口さん、もし英語でお困りなら、是非お手伝いさせてください。他の言語も、大学受験で使えるものは日常会話くらいなら嗜んでいきますから、そちらも必要となれば、どうかご連絡を」

思うが、ここは周囲への対応を優先させる。

今日のように『本業』が入るのが稀な分、平時に便利屋として働かなければ、生活すら成り立たないのだから仕方がない。

「しかし、ドウシタンデすか、碧弥さん。まだ時間はアるはずデすが？」

依頼集めに腐心するこちらの気も知らず暢気に訊ねる所長の鼻先に、胸元から取り出した懐中時計の文字盤を突きつける。

日本へ渡る前にロンドンの骨董屋で購入した時計で、掌に収まるサイズの割に凝った意匠の愛用品だ。

常日頃から欠かさず整備してあるその針は、今も正確に9時36分を示している。

「んん……？ アア、なんダ、まだ約束の10時まで30分もアるじゃないデすか」

腕時計すら持ち歩いていないことや、6分さばよんだことに関しては不問に処す。そんな些事がものの数にも入らないほどの問題がある。

「ええ、そうですね。ここからバイクでも20分はかかる依頼人の自宅で詳細を伺うと約束した時間まで、あと30分足らずです」

「ア……アはは……」

私の台詞に、彼の表情が固まった。

完全に移動時間を失念していたらしい。

「所長？」

「……はい」

「やはり、忘れ」

「今すぐにッ！ 用意しれますッ！」

ていましたね、と続ける間もなく、私の脇を抜け事務所へ走り出した。

余りに予想通りな、この1年余りでパターン化してしまったやりとりに、つつい溜め息をつく。

だが、ここで私が呆けていて遅刻しては、元も子もない。

意外な俊足で駆けて行った所長の背中を見送り、井戸端会議を中断させてしまった奥様方に一言詫びてから、こちらに向かった時よりも僅かに緩やかな歩調で、彼の後を追った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7751i/>

---

鬼肉嗜食

2010年10月11日12時00分発行